

具体例に学ぶ

e法務ソリューション

デジタル訴訟社会を生き抜くために

text by
佐々木隆仁 AOS Technologies
▶ eLaw.jp

vol.

4

「画面スナップショット」機能
パソコンやインターネットの利用状況を、画面スナップショット付でログ記録するため、映像(連続した静止画)を見るように利用状況を確認できる。

将来の訴訟費用と現在の業務費用

ログ管理で実現する二つのコスト削減

事後対策にかかるコストは割高

前回は、事前対策に比べると、事後対策はコストがかかるという例を紹介しました。今回、それをもう一度整理したうえで、改めてログ管理ソフトの有効性についてお伝えしたいと思います。

最近増えている未払残業代の労務訴訟では、従業員側は自ら記した就業メモを証拠として、請求訴訟を起しますが、このような場合、弱い立場に見える従業員側に有利な判断が下る傾向があり、企業側の苦戦が続いています。そのため企業側は、原告が使っていたパソコンのログを復元し、訴訟に対応する必要が出てきているのです。

弊社もさまざまな企業からの依頼を受け、パソコンや携帯電話など、ウェブサイトの閲覧についても、ドメイン名やURL、閲覧したファイルタイプなど、履歴をすべて記録・保存しています。近年、大きな問題となっている、インターネット経由のファイル交換やプログラムの違法ダウンロードも追跡でき、さらに、閲覧を許可するサイトをリスト化し、閲覧の範囲をあらかじめ制限したり、逆に、閲覧を許可しないサイトをリスト化。リストに含まれるサイトへのアクセスを禁ずることも可能です。

ログ管理を意識させることで業務効率も向上

その他、キーストローク、プログラムの使用状況、ネットワークの使用状況、転送されたファイル、ファイルの印刷、USBなど外付けメディアへのコピー等、随時、記録しています。ロ

どのデジタルデバイスから、データを取得・分析・調査するためのサービスを行っておりますが、こういった事後調査では、人件費や追加の調査費用などがかさみ、パソコン1台当たり、数百万円もの費用がかかるケースも発生しています。

ログ管理ソフトを活用し、事前対策を

こうした、コストが割高になってしまいう事後対策に対し、事前対策ではコストを抑えることが可能です。つまり、従業員が使用するデジタルデバイスの使用履歴を記録に残し、万が一の事態に備えることで、不祥事自体の予防と、事後対策費用の抑制が可能になります。そのためツールが、ログ管理ソフト「スペクタープロ」というわ

画面スナップショットで作業状況が一目瞭然

パソコン向けの「スペクタープロ Enterprise ネットワーク版」を例に、その特徴を見ていくことにしましょう。まずは「画面スナップショット」機能。これは通常業務やサイトの閲覧の様子を、随時、画像としてキャプチャリングしていく機能で、

7万円程度です。前述した事後対策にかかる費用と比較すれば、経費削減という意味でも大きな効果を発揮することが、お分かりいただけると思います。

(上)メール使用状況。たとえメールが削除されても、保存されたログから内容を確認することができる。
(下)ウェブサイトの閲覧履歴。「表示されたWebサイト」機能は、ブラウザの履歴機能をはるかに上回る性能で記録を取る。

「スペクタープロ」操作画面



記録日時はもちろん、キャプチャされたウェブサイトのURL、検索された語句や検索結果などを精密な画像として保存するため、再生ボタンを押せば、作業の状況を映像として確認することができます。監視カメラの映像を眺めるように、パソコンの使用状況を確認することができます。

メールの送受信もすべて記録します。OutlookやThunderbirdといった標準的なものだけでなく、近年、サブアカウントとして使用されている、HotmailやYahoo Mail、あるいはGmailといったウェブメールもログとして残しています。どういったかたちであれ、メールで送受信を行うと、添付ファイルを含め、そのつど複製を作成し、保存する機能をもっています。もちろん、削除されたメールも、すべて保存されることになるのです。

簡単な要件であれば、チャットやインスタントメッセージを利用する機会も増えてきましたが、「スペクタープロ Enterprise ネットワーク版」では、チャットルームやインスタントメッセージのタイトル、ユーザー

プロログラムの使用状況、ネットワークの使用状況、転送されたファイル、ファイルの印刷、USBなど外付けメディアへのコピー等、随時、記録しています。ロ

